

1. カンボジア野党サム・レンシー党首が辞意

フン・セン首相と対立し、事実上の国外亡命状態にあった最大野党カンボジア救国党のサム・レンシー党首が 11 日、党首を辞任し、離党する意向を明らかにした。救国党は 12 日開いた緊急の常任委員会でサム・レンシー氏の辞任を認め、後任の党首が決まるまで当面、ケム・ソカ副党首が党首代行を続けることを決めた。サム・レンシー氏は 11 日、自身のフェイスブックに投稿した文書で「個人的な理由」と発表した。同氏に対しては 2015 年 11 月、名誉毀損容疑で逮捕状が出され、現在まで事実上の国外亡命状態にあった。カンボジアでは6月のコミュン(地区)レベルの地方選や、来年7月の総選挙を控え、与野党の攻防が激化。与党・人民党を率いるフン・セン首相が先に、有罪判決を受けているサム・レンシー氏を念頭に「党首が重大な間違えを犯した政党を解党できるよう法律を改正していく」と発言しており、辞意表明の背景には、救国党解党の事態を避ける狙いがあるとみられる。

2. 政治評論家ソク氏を拘束、首相の提訴受け

プノンペン地方裁判所の判断に基づき 17 日、政治評論家のキム・ソク氏が拘束された。昨年7月の著名政治評論家ケム・レイ氏射殺事件について、キム・ソク氏は与党・人民党が計画を練ったと主張。フン・セン首相が名誉毀損(きそん)と扇動に当たると提訴していた。6月の地方選を前に、反与党派への取り締まりが厳しくなっている。ソク氏は同日の出廷命令に応じ、地裁で3時間に及ぶ尋問を受けた後、拘束された。今後は当局が取り調べる。ソク氏は拘束前、300 人の支援者に囲まれ「私は恐れていない。国民も恐れるべきではない」と声高に叫んだ。与党・人民党がケム・レイ氏の射殺を企てたと主張するソク氏に対し、フン・セン首相が名誉毀損に当たるとして 50 万米ドル(約 5,600 万円)を求めて提訴していた。首相は「刑務所に2年服役すべきだ」と主張、ソク氏の国外逃亡を阻止するため、当局に行動を監視するよう指示していた。

3. 国民議会は機能不全、選挙監視団体が警告

カンボジアの選挙監視団体「カンボジアの自由で公正な選挙のための委員会(COMFREL)」は最新の報告書で、国民議会在機能が不全の状態に陥っていると公表した。与党・人民党による「多数派の強硬方針」により、民主主義が崩壊の危機にあると警鐘を鳴らしている。COMFRELは 2015 年 11 月～16 年 10 月の国内政治状況を分析。立法化された法案のうち、議論もなく国民議会を通過した法案が 11 件、人民党が一方向的に採決した法案が 21 件に上ったと指摘した。COMFRELは「国民議会では以前よりも多数決による強行が目立ってきた」と説明。「少数派の意見が黙殺されるようになり、民主主義の危機が迫っている」との見方を示した。報告書では、各議員の選挙区訪問状況を調査。昨年の訪問回数は全議員で 1,801 回と前年の 1,004 回から大幅に増えた。所属政党別の訪問数は、人民党議員(56 人)が 617 回、救国党議員(45 人)が 1,184 回。COMFRELは「選挙区訪問が増えたのは、明らかに6月の地方選を見据えた動き」と分析している。

4. 中堅幹部の起訴見送り、ポト派特別法廷

カンボジアの旧ポル・ポト政権による大虐殺を裁く特別法廷は 22 日、強制労働で多数を死亡させた容疑などで捜査を進めていた元ポト派中堅幹部のウン・チャイム氏の正式起訴を見送り、捜査を終結すると発表した。特別法廷の共同捜査判事は発表で、ウン・チャイム氏は「(ポト派の犯罪に関し)最も責任のある当局者とは言えない」と見送りの理由を説明した。特別法廷ではこれまでに、元最高幹部のヌオン・チア元人民代表議会議長ら3人の終身刑が確定している。

5. 中国支援で新友好橋、南部カンダルに完成

カンボジアの南部カンダル州コー・トム地区に、中国の資金援助による新たな友好橋が完成した。周辺地域の新たな経済動脈としての役割が期待される。プレック・トゥメイ村に架かった橋は全長 415 メートル、幅 13.5 メートル。2014 年 3 月に着工していた。総事業費は 1,939 万米ドル(約 22 億円)で、中国が無利子融資で資金を援助。カンボジアと中国の両政府が 13 年4月、正式に契約に調印していた。橋の完成で国道1号線と国道 21 号線が接続。周辺の交通状況が改善されるほか、ヒトやモノの取引が活発になると期待される。13 日の完成式典に出席したフン・セン首相は「カンボジアのインフラ開発を支援している中国に感謝する」と述べた。カンボジアと中国との関係が一段と強まることを望むとも話した。中国は首都プノンペンに、国道6号線からトンレサップ川の対岸に渡る友好橋も建設。日本政府の援助で建設した「日本カンボジア友好橋」に並列する形で架かっている。

6. ザラの委託工場閉鎖、補償問題で争い続く

ファッションブランド「ZARA (ザラ)」を展開するスペインのアパレル大手インディテックスなどが委託していたカンボジア縫製工場が閉鎖した問題で、労働者らが補償金の支払いを求めて争いが続いている。問題になっているのは、中国系企業コー・シークが首都プノンペンのルセイケオ地区で運営していた工場。ザラや米エスプリのズボンなどを生産していたが、2016年9月に突然閉鎖した。労使の間で賃金支払いが合意に至っておらず、今月13日に労働者らが閉鎖工場の前に集まり、補償の支払いを求めた。コー・シーク側は先に、労働者に1人当たり160米ドル(約1万8,000円)の補償金を支払うことを提案。労働組合側は労働者が12年から働いているとして800米ドルを求めた。ただ既に労働者400人のうち約300人は160米ドルで合意。残る98人が現在、200米ドルを求めて争っている。ある労働者は「200米ドルしか求めていないのに、事業者が応じようとしないう」と話した。

7. 1/24 GHI 工場で働く労働者が賃金支払い求めデモ

カンダル州のGHI縫製工場で働く労働者80人が昨日、会社が裁判所に預けているお金で、はやく給与を支払ってほしい、と主張し、裁判所前でデモを行った。工場では給与延滞のトラブルがあり、去年8月に仲裁審議会が労働者196人にちゃんとお金を支払うように、と工場に命令を出している。カンダル州裁判所は、その後工場の資産を凍結。工場に対して、16万ドルのデポジットを裁判所に支払えば凍結は解除する、と伝えた。裁判所に勤めるSo Sarinさんによると、工場はすでにお金をすでに16万ドルを裁判所に預けており、資産の凍結はすぐに解除される予定のよう。4年間工場に働いていたMoun Samphorthさんは、去年の6月から支払いがなく、合計の未払い金額は1400ドル以上になると話す。「もう長い間給与をもらっていません、もしこのままだったら、フンセン首相の自宅に行きます」と彼女は話した。デポジットを支払ったあと、工場は建物の整理や掃除を始めており、労働者たちの不安が煽られているようだ。

8. 1/26 GHI 工場へ賃金支払い命令

カンダル州裁判所の裁判官Ngon Vuthyさんは昨日、GHI縫製工場から預かっていたデポジットの16万ドルで、200人への給与退職金を支払う、という命令を正式に下した。裁判官は「しかし、これから手続きがあるので、実際にいつ労働者がお金を受け取れるからはまだ明確にできません」と話した。仲裁審議会が、工場に対してちゃんと賃金を払うように命令を出してから5ヶ月目での進展であった。人権団体Solidarity Centreの法律家Heng Bonさんは、支払いを申請するフォームに労働者たちが記入するのを、喜んでサポートする、と話した。「労働者たちにとって嬉しい進展となりました。法に則って、すぐに支払いをうけることができるでしょう」、と話した。

9. 1/25 香港系工場で賃金未払いによるデモ発生

プノンペンのChbar Ampoyと隣のKien Svayでは昨日、約100人の縫製業労働者がフン・セン首相の自宅に請願書が届けて、工場が勝手に閉鎖し12月の給与が支払われていない状況を訴えた。問題となっているKbal Koah縫製工場とTop World縫製工場は同じ香港人オーナーが経営している。合計600人の労働者が先週デモを行った。Kbal Koahで働いているSrey Nangさんは、給与が遅れていることで彼女の家系は大変苦しいものになっている、と話した。また、Kbal Koah工場のマネージャースタッフKhen Vaさんは、「工場が突然閉まってしまったから、オーナーからは一言もありません。私も給与はもらっておらず困っています。正式に倒産するともいっていないのです。オーナーと連絡が取れないことには何にもできません」と話した。

10. 1/24 コンボンスプーで縫製業労働者のトラックが横転、25人が怪我



労働者が乗っていたトラックが事故で横転したことにより25人が怪我をした。場所はコンボンスプーのSamrong Tong地区、車両は、別の車を追い越そうとしていた。労務省によると、6人が重傷、19人が軽傷だ。社会保障基金は、怪我をした人々への治療費支給をすぐに手配した。12人がコンボンスプー病院に運ばれて、8人はカンダル州のAnf Snoul病院でそれぞれ治療を受けた。「政府は色々な対策を必死になって考えていますが、交通事故の件数はまだまだ多いです。より真剣に考え、安全性を確保できるように努めてい

きたいと思います」と労務省のHeng Sour氏は話した。政府は、すべてのドライバーに正規のライセンスを保有し、適切な訓練を受けていることなどを厳しく取り締まる、と話す。また、労働者に対しても、運転手が適切な人物であることをチェックしてほしい、と話した。ドライバーはすぐに逃走した。合計で30人がトラックにはのっていた。

11. 1/31 約 30 人が工場内で気を失う

シハヌークビルにある Romantic Leather(Cambodia)社では、28 人が昨日の朝に倒れた。確かな原因は判明していないが、労務省の Yoy khemara さんによると、1 人が体調不良でまず倒れ、それを目撃した人が次々と倒れていったという。「すぐに病院に運ばれました。1 日休みをとってもいいし、もし体調が良くなり戻りたいなら戻っても良い、と言われたようです」と話す。会社の代表からのコメントはなかった。全国社会保障基金が先月公表したデータによると、2016 年、合計で 1160 人の縫製労働者が仕事に倒れて気を失った。

12. 1/20 地雷撤去活動中の職員が死亡

地雷撤去活動に携わっていた地雷処理爆発発生戦争残存物処理センター(NPMEC)のスタッフが、木の根っこを切っている最中に地雷が爆発して土曜日に死亡していたことが、昨日発表された。4 日目前にも、地雷除去スタッフが活動中に死亡しており、悲劇が繰り返されることになった。地雷除去専門 NGO のヘイロートラストで活動に従事していた職員も、先週の金曜日に死亡したのだ。NPMEC の Malinda Kosal さんによると、死亡した Soun Yoeun さん 38 歳は、Sala Krao 地区で、ロシア製の PMN を処理しようと木の根っこを切っている際、爆発に巻き込まれたという。Yoeun さんには妻と二人の子供がいた。「NPMEC では、滅多に事故は起こらないんです。2005 年以来です」と Kosal さんは話す。地雷処理活動中の事故は減少しており、2016 年は 83 件ほどだった。カンボジア地雷対策センターの Heng Ratana さんは、センターの職員たちの最近悲劇が続いていることで不安になってきている、と話す。しかし安定した心持ちでいられるようにミーティングを繰り返していると話す。

13. 1/27 強盗4件発生 大学生殺害の容疑者逮捕

プノンペンで立て続けにおこっている強盗事件で、その背後にいると思われる男性 2 人が逮捕された。少なくとも 4 件に関わっているとされ、そのうち先週土曜日に発生した 1 件では、大学生が拳銃で撃たれ亡くなっている。逮捕されたうちの一人は記者会見のなかで、発砲したことを認めた。内務省は水曜日にこの容疑者 2 人を別の場所で逮捕した。警察官の Sok Khemarin さんによると、警察は 2 人の保持していた、M16 小型拳銃やピストル、ベレッタやハースタル、弾薬などを押収した。殺害された大学生の Chan Sokchea さん 24 歳は、婚約者とその姉妹が、自宅のそばで容疑者 2 人に襲われているところ、助けに入ろうと自家用車のレクサスで轢こうと追突し撃たれた。昨日の記者会見で、Khemarin さんは 2 人の容疑者を引き出して、名前と顔を公表した。Sokchea さんを撃ったのは Um Suosdey 容疑者、強盗しようと婚約者を襲っていたのが Chan Sovan 容疑者だ。二人はその後プノンペン裁判所に連れて行かれ、強盗と武器の不当使用などで告発された。その後 Prey Sar 刑務所へ行った。警察によると二人は罪を認めているという。また、バイク 3 台とトランシーバーを押収している。うちバイク 2 台は Sokchea さんを殺害したときに使用していたものだ。昨日の記者会見のなかで、Suosdey 容疑者は、土曜日に Sokchea さんを撃ったと認めた。インターコンチネンタルホテルの近くにある信号のあたりから、しばらく彼の車をつけていたという。「車で私を轢こうとしましたが、それで無事だったので、ピストルで 5 発撃ちました」と話した。「拳銃は Takhmao 地区で男性から買ったものです。彼の名前はしりません」と話す。警察は、銃器を男たちに売った人物の特定に急ぐ。

14. 最近の外資の動向

・タイBグリムと電力安定供給 プノンペン特区社、企業誘致に布石

経済特区(SEZ)を運営する日系プノンペン経済特区社(PPSP)は 20 日、ドイツ系のタイ電力大手Bグリム・パワーと、電力整備を手掛ける合弁会社の設立に向けて覚書を交わした。PPSPがタイ国境近くで開発を進めているSEZで、まずは事業費約 300 万米ドル(約3億 4,000 万円)規模の送電網整備に乗り出す。PPSPはタイ最大規模の工業団地で電力を管理するBグリムと組むことで、電力の安定供給と企業誘致につなげる狙いだ。

・ネット広告アドアジア、現地法人設立

アジアでインターネット広告事業を展開する日系のアドアジアホールディングス(本社シンガポール)は 10 日、プノンペンにオフィスを開設し、事業を開始したと発表した。カンボジアでは携帯インターネットの急速な普及で、モバイル広告市場も急速に拡大。アドアジアが提供している縦型モバイル動画広告「Parallax 広告」、モバイル向け動画広告配信「アドアジア・ビデオネットワーク」の需要が高くなると見込んで進出した。広告主はアドアジア・デジタルプラットフォームを通じ、カンボジアの媒体への広告配信が可能になる。年内に同プラットフォーム導入企業 100 社を目指す。カンボジア法人は6カ国目、7番目の拠点になる。

・商船三井、子ども用車いす輸送に協力

商船三井は、非営利組織(NPO)「海外に子ども用車椅子を送る会」(東京都福生市)がカンボジア社会福祉省の障

害者支援局に寄贈した子ども用中古車椅子について、海上輸送を無償で行った。輸送協力は 2010 年以降、今回で 6 度目。計 90 台の車椅子を積載したコンテナ船が昨年 11 月 25 日、東京港を出発し、12 月 9 日にカンボジア南部 シアヌークビル港に到着した。首都プノンペンで今日 1 日、車椅子の寄贈先であるカンボジア社会福祉省障害者支援局による記念式典が催された。

・不動産クリード、「ボダイジュ」の上棟式

クリードグループ(東京都新宿区)は 18 日、プノンペン郊外で建設中のコンドミニアム「ボダイジュ」の上棟式を開催した。年末の完成と、来春からの入居開始を目指している。今後も物件開発のノウハウを武器に、地元民向けの不動産事業を拡大していく考えだ。

・ローズウッド、首都中心部に 6 月末開業

5 つ星ホテル「ローズウッド・プノンペン」が、プノンペン中心部で 6 月末に開業する見通しとなった。25 階建ての複合施設「バタナック・キャピタル・タワー」の上層 14 階がホテルとなる。客室数は約 150 となり、長期滞在者用の客室も設けている。

・ケリー SEZ、産業高度化へ独バンバリアと提携

香港と地場の物流合弁会社ケリー・ワールドブリッジ・ロジスティクス(KWB)は 20 日、工業団地の設計・開発を手掛けるドイツのインサイト・バンバリアと提携した。今後 6 か月間にわたって事業化調査を実施し、有望産業を選定する。高度な産業技術を持つ企業を KWB が運営する経済特区(SEZ)に誘致し、他の SEZ と差別化を図っていく考えだ。

・タイの JMT ネットワーク、不良債権ビジネス

不良債権ビジネスを展開するタイ上場会社、JMT ネットワーク・サービズは 20 日、カンボジアで事業展開するため、全額出資の現地法人 JMT (カンボジア) を設立すると発表した。債権回収のほか、コールセンターも展開する。資本金はパーツ換算で 3060 万パーツ。今年 6 月までに業務を開始する。タイ中銀によると、2016 年末のタイ国内の不良債権は計 3857 億パーツとなり、15 年末から 481 億パーツ増加。JMT も昨年は過去最高となる 196 億パーツの不良債権を金融機関から購入した。今年はカンボジアも含めて不良債権の買い取り額は 300 億パーツに増える見込み。

以上